

ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 277



*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
【書名の後の（）の数字は（請求記号 保管場所 資料番号）です。】

問) 5月15日の沖縄返還に関する資料はあるか。

答) 図書室内にある検索端末では、所蔵資料を検索することができます。「なんでも検索」にキーワードを入れると、タイトルや編著者名だけでなく、目次からも検索することができます。検索端末でキーワード検索をしてみましょう。

なんでも検索 ⇒ 沖縄返還 ⇒ 199件ヒット

ヒットした件数が多いので、手軽に読むことができる「開架」にあるかどうか、画面上部の「場所」にチェックを入れて絞り込みましょう。38件ヒットしました。

資料の種類: 図書 雑誌 地図・海図 場所: 開架 閉架

開架とは、閲覧室にある書棚のことです。閉架は書庫を指します。

『いまこそ知りたい！沖縄が歩んだ道 1』(219.9/A65/1 開架児童書 060008669)

『戦後50年その時日本は 第4巻』(210.76/N71/4 開架一般 000021761)

次はキーワードを追加してみましょう。以下は「閉架」のみチェックボックスを入れます。

絞り込み検索 ⇒ ことばで絞り込む ⇒ 復帰 ⇒ 43件ヒット

並び替え: 出版年月順

並び替え機能を選択し、検索結果一覧を並び替えることができます。



『沖縄復帰の記録』(219.9/N48 閉架一般 000045495)

『アメリカの沖縄政策』(219.9/Mi82 地下書庫和図書 000067868)

『戦後沖縄生活史事典』(219.9/Ka11 閉架一般 000069442)

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

『ガラスのうさぎ』に込められた思い

『ガラスのうさぎ』という児童小説をご存知でしょうか。著者の高木敏子さんの戦争体験を元に書かれました。昭和52年（1977）年に出版され、翌年に第24回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書となったことをきっかけとして、これまで多くの子どもたちに読まれてきました。

本書では、昭和16年（1941）12月8日に開戦した太平洋戦争を機に主人公の敏子の生活が一変します。二人の兄は旧陸海軍に入隊、昭和19年（1944）に敏子と二人の妹たちは、両国の自宅から知り合いに紹介された神奈川県中郡二宮町の家へ疎開することになりました。しかし、翌年2月中旬に敏子が下校すると妹たちの姿がありません。妹たちは親元を離れた心細さから両国へ帰ってしまったのです。敏子は自身も帰りたい気持ちを抑えて疎開先に留まることになりました。その後、3月10日の朝に東京大空襲の報道を耳にします。家族の安否がわからず不安が募る中、父親が疎開先に現れて敏子に話しかけました。

「母さんと信子や光子は来たかね。（中略）見つからないんだ。ひょっとして、先に二宮に来て
いるかと思ってー。」
『ガラスのうさぎ』

終戦後、高木さんは大学への進学を諦めて就職しました。社内で知り合った男性と婚約。戦争体験へのこだわりがあった高木さんは、太平洋戦争が開戦した日にちと同じ12月8日に結婚式を挙げました。そして、子育てをする日々の中で「自分が身をもって体験した戦争の悲惨さと残酷さを、わが子を含め、戦争を知らない世代になんとか伝えたい」と考えるようになりました。こうして『ガラスのうさぎ』が金の星社から出版されました。

初版から23年後の平成12年（2000）に『ガラスのうさぎ』は新版を出版することになりました。高木さんが孫たちに旧版を贈ったことがきっかけでした。孫たちから、学徒出陣や機銃掃射などの用語は「辞書を引いてもわからない」と言われた高木さんは「子どもたちの親も戦争を知らない世代となった今、我が子の質問や疑問に答えることすらできなくなっている」と気付きました。

新版は本文の文字は大きく、行間は広くなりました。また、ふりがなを増やし、戦時用語の解説を加えました。新版のあとがきで高木さんは次のように語っています。

「子どもたちが二度とわたしのように「戦争」という二文字のために泣くことがないように、平和を大切にす心、思いやりの心を育むことに、すこしでもお役に立てればと念じています。」

『『ガラスのうさぎ』：未来への伝言』

【参考文献】

『ガラスのうさぎ』（913/Ta29 開架児童書 060001295）

『『ガラスのうさぎ』：未来への伝言』（910/Ta29 地下書庫和図書 000051929）



ぶらりらいぶらりい～図書室にはこんな本があります～ NO. 277

2024年5月21日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1